学科の３つのポリシー

＜学科全体＞

本校は、教育理念である実学教育、人間教育、国際教育の実践と、学生からの信頼、高等学校からの信頼、業界からの信頼、地域からの信頼という４つの信頼をもらえる職業人教育を実践している。本校では、各学科の基準となる単位数を修得し、専門職業人として以下に示した力を身に付けたものを卒業認定の要件としている。

＜卒業認定･学位授与の方針（ディプロマポリシー）＞

■看護学科

看護学科（以下「本学科」）では、「実学教育」、「人間教育」、「国際教育」の建学の理念に基づき、豊かな感性と教養を養い、看護に必要な知識・技術・態度を身に付け、地域の健康の担い手として活躍できる質の高い看護師を育成する。看護活動実践に必要な下記の要件を満たし、本学科の 106 単位の単位修得を満たすことを卒業要件とする。

（１） 課題解決に向けて、主体的に考えて行動する能力を有している。

（２） 人々の生活や価値観を理解し、豊かな人間関係を構築する力を有している。

（３） 生命の尊厳と人格の尊重を基盤とした豊かな人間性と倫理観を有している。

（４） 看護の対象である人間を総合的に理解し、科学的根拠に基づき臨床判断を用いて、看護が実践できる基本的能力を有している。

（５） 多職種と連携・協働し、変化する社会情勢に応じて、保健・医療・福祉チームの一員として地域社会に貢献する力を有している。

（６） 異文化に対する理解を深め国際的な視野に立ち、幅広く情報を得て柔軟に対応する力を有している。

■理学療法士学科

理学療法士学科（以下、「本学科」）では「実学教育」「人間教育」「国際教育」の建学の理念に基づき、「保健」「医療」「福祉」のそれぞれの立場で幅広く貢献できる人材を育成することを目的とする。そのためには社会人基礎力を身に付け、自己研鑽に励み地域社会に貢献できる能力が必要であり、これらの能力を以下のように「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技術・表現」「知識・理解」の４つの観点で分類した。

＜関心・意欲・態度＞

（１） 専門職として常に研鑽に励み理学療法の発展に努力することができる。

（２） 日々変化する社会情勢に関心を持ち、地域のニーズに応えることができる。

（３） チームを構成するスタッフ及び対象者やその家族などから信頼を寄せられる人間性を身に付けている。

＜思考・判断＞

（１） 理学療法士の職業を認識し、自己コントロール力を身に付けている。

（２） 予後予測を基に臨床推論能力を高める力を身に付けている。

＜技術・表現＞

（１） 対象者やその家族と良好な人間関係を構築できる。

（２） 理学療法士としての基本的評価・治療技術を身に付けている。

＜知識・理解＞

（１） 理学療法士として必要な基礎的知識を有している。

（２）　対象者を支援する為の幅広い教養を身に付けている。

■作業療法士学科

作業療法士学科（以下「本学科」）では、「実学教育」、「人間教育」、「国際教育」の建学の理念に基づき、「施設から在宅・地域へ」のシステムの構築が進む中、時代と社会と地域に即した作業療法士を育成する。卒業時点までに獲得すべき３つの能力を、「目的志向・思考力」：問題解決する力、「実行力」：あらゆる手段を講じられる力、「コミュニケーション力」：関係者と連携する力と定め、その能力と本学科の 145 単位修得のすべてを満たすことを卒業要件とする。これらの能力を以下のように「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技術・表現」「知識・理解」の４つの観点で分類する。

＜関心・意欲・態度＞

（１）　専門職としての在り方や地域や社会のニーズに絶えず関心を持ち、プロフェッショナルとしての自己を高める努力が継続できる。

＜思考・判断＞

（１）　様々な状況に対応できる論理的思考を身に付けている。

＜技術・表現＞

（１）　対象者やその家族と良好な人間関係を構築できる。

（２）　作業療法士としての基本的評価・治療技術を身に付けている。

＜知識・理解＞

（１）　作業療法士として必要な基礎的知識を有している。

（２）　対象者の生活を支援する為の幅広い教養を身に付けている。

■医療福祉総合学科

医療福祉総合学科（以下、「本学科」）では、「実学教育」「人間教育」「国際教育」の建学の理念に基づき、医療と福祉の基礎を学び、目指す将来に合った領域（「医療秘書・クラーク専攻」「健康リハビリ専攻」）に分かれて専門性を取得し、病院・福祉施設の事務やスポーツ分野それぞれの立場で貢献できる人材を育成することを目的とする。人材育成目標を達成するため、卒業時において学生が身に付けるべき能力を以下のように「人間性・社会性」「専門性」の 2 つの観点で分類する。本学科所定の全単位習得をもって、人材育成目標の達成とみなし、卒業要件とする。

＜人間性・社会性＞

人間への深い関心と尊厳をもって、社会人としての基礎的な能力を身につけ、医療福祉従事者として必要な目配り、気配り、心配りを持つ。また、他者と協働できるコミュニケーション能力。

＜専門性＞

幅広い知識を身につけ、　各専攻に応じた資格を取得することができる。

＜カリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施方針）＞

年次の終了時には、各教科目が一定の水準を満たし、次年度以降の教科目を履修する基礎レベルが修得できているかを確認する「進級要件」を設けている。

■看護学科

カリキュラムの内容については、保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定められた内容で、「基礎分野」14 単位、「専門基礎分野」23 単位、「専門分野」69 単位、計 106 単位の科目を体系的、系統的に学ぶ。

ディプロマポリシーで掲げている看護活動実践に必要な要件については、そのカリキュラム内容を以下に示す。

（１） 保健・医療・福祉チームの一員として必要な知識と協働する力を修得する科目を設置します。

（２） 様々な生活の場における看護活動を体験できるよう、幅広い実習の場を提供します。

（３） 豊かな人間性と倫理観の育成につながる科目を設置します。

（４） 国際的な視点から、人々の生活と保健・医療・福祉について学ぶ科目を設置します。

（５） 適切な臨床判断を行い、科学的根拠に裏付けられた看護が実践できる能力を修得できるために、専門基礎科目・専門科目を設置し、これらの科目の講義・演習・実習を体系的、段階的に配置します。

（６） 主体性を獲得し、コミュニテーション能力・問題解決能力・論理的思考・知識を活用する能力が修得できるように多様な教育方法で教授します。

■理学療法士学科

本学科では、３つの教育理念を基に獲得すべき能力について、各教科目の特徴を踏まえ、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技術・表現」「知識・理解」の４つの観点から育成する。

＜関心・意欲・態度＞

１年生の基礎医学である「解剖・生理学」から人体の基本構造を学び、「運動学」や「動作学」において人体の関節や筋の機能性、基本的動作における力学的作用や分析方法について学ぶ。また、国家試験対策として効率的なノート作りやグループ学習での役割分担など、自主性や他者からの気付きを通してチャレンジ精神や協調性など態度教育に励んでいる。

＜思考・判断＞

ケーススタディにて病態像の理解と臨床推論能力を高め、実践応用力を習得する「理学療法技術論」や「臨床実習」にて創造性豊かな思考や判断力を構築する。

＜技術・表現＞

「基礎キャリア教育」を通じて、表現や他者を尊重することの重要性や共生としての視点を学び、行動力やリーダーシップを養うことを目的に、地域活動や各種学友会活動などにも積極的に参加する。また様々な分野での「理学療法治療学」や基本的評価・治療技術を身に付ける。

＜知識・理解＞

基礎医学である「解剖学」、「生理学」、「運動学」は十分な時間をかけて講義するほか、その講義内容を自分の体を使い理解できるよう「体表解剖学」、「理学療法評価学」などの演習に加え、様々な分野における学外演習を組み、「講義」－「体験・演習」のスタイルを取り入れている。

■作業療法士学科

ディプロマポリシーで掲げている獲得すべき３つの能力の育成については、以下に「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技術・表現」「知識・理解」の項目ごとに教育内容を示している。

＜関心・意欲・態度＞

作業療法士として、社会から求められ地域に貢献できる人材となるには、作業療法士としての熱意と豊かな創造力や実行力が必要と考えている。地域包括支援ケアシステムが推進される中、作業療法士として、社会の制度や地域社会についての理解だけではなく、保健・医療・福祉チームの一員として、どのような役割を担うのかについてもしっかり理解しておく必要がある。そのため、本学科では「地域作業療法学」「社会福祉学」に加え「チーム医療論」の科目を置いている。また、職業意識を高め、地域や社会に興味・関心を持って活躍できる人材を育てるために「生活環境福祉論」の科目の一環として、産官学連携で鳥取市のまちづくり点検を実践し、バリアフ

リー環境について学ぶ。さらに、地域との結びつきやチーム医療の基盤となる人間関係構築を目的に、課外活動では地域のしゃんしゃん祭りへの参加やボランティア活動にも積極的に参加している。
情報収集力、課題設定力、ICT 活用力が獲得できる科目を基盤に「作業療法研究法Ⅰ」「作業療法研究法Ⅱ」の科目を置いて体系的に研究について学び、自己の研究課題を通して、プロフェッショナルとしての自己を高められる支援をしている。
＜思考・判断＞
論理的思考や自分の思考をまとめるために「基礎キャリア教育」の科目を置いている。また言葉の力を高めるために「語彙・読解力」検定も受験している。そして、様々な状況に対応できる思考を身につけられるように「講義」「演習」「様々な状況の事例」を一体化した教育課程を編成している。
２年次には、１週間のアメリカ研修を通して、作業療法の実際や医療を学び、国際的な感性とグローカルな視点で物事を捉えることを目指している。
＜技術・表現＞
作業療法士が、その専門性を発揮し、対象者の QOL（生活の質）の向上を目指し支援をするためには、高いコミュニケーション能力が必要不可欠となる。本学科では、人の心理を理解し、意図的なコミュニケーションができるように「基礎キャリア教育」「人間心理学」「臨床心理学」の科目を置いている。
基礎医学および作業療法学の知識・技能を応用し、すべてのライフステージにおける対象者のさまざまな健康状態（身体、心理、社会）を評価し、エビデンスに基づいた作業療法の実践ができるような科目を配置している。
作業療法の基本的な思考・知識・技術・態度を身につける作業療法の基礎と作業療法の評価に関連する科目を修得し、その修得した知識・技術・態度を統合させる学内実習、そして実践力を付ける臨地実習と段階的に学ぶ。
＜知識・理解＞
対象者の生活を支援する為には、多様なアプローチを用いた支援を行うことができる人材を期待されている。そのため、本学科では「福祉住環境コーディネーター」「初級パラスポーツ指導員」の資格を取得できるようにしている。
国家試験対策のサポートとして、作業療法士としての知識を獲得するための科目を１年次より各学年に組み込んで国家試験全員合格を目指している。

■医療福祉総合学科
本学科のディプロマポリシーで掲げている獲得すべき２つの能力の育成については、以下に「人間性・社会性」「専門性」の項目ごとに教育内容を示している。
＜人間性・社会性＞
１年次から「キャリア対策講座」「心理学概論」「地域活動演習」などの科目、２年次には「学外実習」を設けており、社会人として必要な身だしなみ、接遇マナーやコミュニケーションのとり方など、学校生活や行事を通じて身に付ける。
＜専門性＞
１年前期から後期にかけて、「解剖学」「生理学」「医学系」「心理系」「医療情報」など医療福祉従事者に必要な基礎知識を身につける。１年後期からは、専門科目があり、「医療秘書・クラーク専攻」「健康リハビリ専攻」の各専攻に分かれ、それぞれの専門性を高めていく。各専攻で以下の通りの資格取得を目指す。

「医療秘書・クラーク専攻」:
医療秘書技能検定２級・３級、医療事務（医科）能力検定試験１級・２級・３級、メディカル クラー

ク®、メディカル・フロント・コンシェルジュ、ドクターズ クラーク®、介護福祉士実務者研修（通信講座で取得） など

「健康リハビリ専攻」:

介護福祉士実務者研修（通信講座で取得）、介護予防運動トレーナー、初級パラスポーツ指導員、ウォーキングトレーナー、健康ケアトレーナー、健康運動実践指導者 など

＜アドミッションポリシー（入学者の受け入れ方針）＞

入学者の選別（評価・判定）

本校では、一般入試、特別指定校推薦入試、推薦入試、社会人入試、クラブ推薦入試、業界推薦入試、卒業生推薦入試、大学・短大・専門学校推薦入試、適性 AO 入試がある。

	一般入試	特別指定校推薦入試	推薦入試	社会人入試	クラブ推薦入試	業界推薦入試	卒業生推薦入試	大学・短大・専門学校推薦入試	適性 AO 入試
看護学科	●	●	●	●	●	●	●	●	●
理学療法士学科	●	●	●	●	●	●	●	●	●
作業療法士学科	●	●	●	●	●	●	●	●	●
医療福祉総合学科	●	●	●	●					●

■看護学科

看護職者は、多様な対象者の幅広いニーズに応え、適切な支援を行う専門職である。このためには、自己研鑽を続けることができること、さらには周囲と協調し、チーム医療等の調整役としての高度なコミュニケーション能力を育むことが求められる。また本学科では、地域社会に貢献できる人材を養成することをめざしている。そのために、次のような能力や態度・資質を備えた入学者を求めている。

（1） 看護師を目指す明確な意志を持ち、社会貢献したいという意思を持つ人

（2） 基本的な生活習慣・健康管理が身についている人

（3） 周囲の人々と円滑な人間関係を築ける人

（4） 自己の課題を明確にし、積極的、主体的に学ぶ姿勢で努力を継続する人

（5） 看護学を学ぶために必要な基礎学力を有する人

■理学療法士学科

本学科では上記のポリシーの観点で以下のような能力を備えた入学者を求めている。

＜関心・意欲・態度＞

・人や健康に対する関心があり、自己の体調管理ができ、理学療法士として保健・医療・福祉分野や地域社会に貢献したいという意欲を持っている者

・他者の考えや思いを理解しようする謙虚な姿勢がある者

・何事にも真面目に取り組み、最後まで諦めずに努力できる者

＜思考・判断＞

・自分の考えや意見に固執せず、他者の意見を取り入れる柔軟な思考ができる者

・自己の課題を明確にでき、前向きに問題を解決しようという考えを持っている者

・論理的思考ができる者

＜技術・表現＞

・協調性があり、良好なコミュニケーションができる者

＜知識・理解＞

・入学後の修学において必要な知識と理解力を有している者

■作業療法士学科

作業療法では、高齢の方や障害のある方が住みなれた地域で生き生きと生活していくために、さまざまな作業活動を通し、諸能力の回復・維持を援助する。そのためには、相手に共感できる豊かな感受性、相手と信頼関係が築けるようなコミュニケーション能力、そして、物事を冷静に捉え判断し、問題を解決する思考力などが求められる。そのため、本学科では、次のような能力や態度、資質を備えた入学者を求めている。

＜関心・意欲・態度＞

・人や健康に対する関心があり、作業療法士として保健・医療・福祉業界や地域社会に貢献したいという意欲を持っている者

・他者の考えや思いを理解しようする謙虚な姿勢がある者

・何事にも真面目に取り組み、最後まで諦めずに努力してきた者

＜思考・判断＞

・自分の考えを押し通そうとせず、他者の意見を取り入れ柔軟な思考ができる者

・自己の課題を明確にでき、前向きに問題を解決しようという考えを持っている者

＜技術・表現＞

・協調性があり、他者と良好なコミュニケーションがとれる者

＜知識・理解＞

・入学後の修学において必要な知識を有している者

■医療福祉総合学科

本学科では医療・福祉分野に関する知識を有し、その多様なコミュニケーション能力や考力・連携力を備えた医療福祉従事者を養成する。具体的には、以下のような資質・素養を持つ学生を求めている。

＜人間性・社会性＞

・心身共に健康な人

・自ら積極的に、豊かな人間性と幅広い教養を身につけることができる人

・他者に対する思いやりをもつ人

＜専門性＞

・医療福祉の分野に興味を持ち、自己の体調管理ができる者

・医療・福祉の分野で社会貢献したいという明確な意思があり、そのために何事も努力できる人